

「うつ」予防 事業化

アドックインターナショナル

自社の成功 プログラムに

【立川】アドックインターナショナル（東京都立川市、小林常治社長、042・528・873）は、自社で効果を上げたうつ病など精神疾患を予防するリフレッシュプログラムを事業化す



奥多摩町日原でまき割り体験する参加者

る。自然豊かな東京都奥多摩町で日常生活を離れる2泊3日のプログラムを、精神疾患の予防や職場復帰の手助けになるサービスとして企業に提案。大手企業の人事担当者や中小企業経営者を招いての体験会などを開き、同事業で2011年

8月期に5000万円、13年8月期には3億円の売り上げを目指す。

アドックインターナショナルのリフレッシュプログラム「日原（ひのはら）スペシャルプログラム（NSP）」は、奥多摩町日原で時間に追われることなく生活し英気を養う。事業化を検討するため4月に設置したNSP推進室を9月から部に格上げし事業を開始。価格は法人契約が年500万円または「社員数×月額500円」の2コース、一般契約は一人1回3万円に設定した。

部員6人が拠点となる借り上げ施設に常駐し、過度なストレスを感じている従業員や職場復帰の

段階まで回復した通院者らの共同生活を見守る。テレビや携帯電話、ゲーム機などの使用を制限し、散歩など自然に触れる時間に充てる。

また活動メニューとして農作業やまき割り、自炊などを用意。住民との交流や草刈りなどの地域貢献活動もできる。ただゆったり生活することを最優先し、スケジュールなどは決めない。

同社の本業はネットワークシステムの運用保守事業。07年に社員の5%に当たる13人が精神疾患で休職する事態になり、

予防措置として一定の残業時間を超えた社員を小林社長の郷里の日原で生活させることを試みた。

09年5月のスタートから100人以上が参加し、イライラ感や抑うつ感を訴える社員が減少。商談で話題になると関心を持つ企業が少なくなく、潜在ニーズを掘り起こせるとみて事業化を決めた。

「11」から離れ自然の中で